

国立大学法人電気通信大学の平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

電気通信大学は、「高度コミュニケーション社会」を支える総合的な科学技術を「総合コミュニケーション科学」として創造し発展させるとともに、それに必要な人材を育成することにより、わが国はもとより国際社会に貢献することを目指している。第2期中期目標期間においては、国際標準を満たす基礎学力の上に、国際性と倫理観を備え、実践力に富む人材を育てること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、世界的教育研究拠点の形成に向けた「総合コミュニケーション科学推進機構」の設置や、学生の実践力を育成する体験型教育プログラムの「楽力教育」の推進等、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

2 項目別評価

・業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(組織運営の改善、 事務等の効率化・合理化)

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

大学が掲げるアクションプラン「UEC ビジョン 2018」の実現に向け、「総合コミュニケーション科学」に関する世界的拠点を目指している姿を社会に対し明確に示すため、関連分野の9つの教育研究センターが属する「総合コミュニケーション科学推進機構」を設置し、「総合コミュニケーション科学シンポジウム」の開催や、「ユニーク&エキサイティングサイエンス」の出版等の活動を開始している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

(外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、 経費の抑制、
資産の運用管理の改善)

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

「電気通信大学基金事務局」及び「創立 100 周年記念事業推進室」を設置し、同窓会との連携・協力を推進することによって「電気通信大学（UEC）基金」の募金活動等を推進しており、その取組の一つとして「電気通信大学シニアサポーター（UEC シニアサポーター）」として位置づけた卒業生が自らの所属する企業における窓口や募金活動の中心的役割をボランティアで担うとともに、企業との共同研究や学生の就職活動等への幅広い支援を行っている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 6 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（3）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

（ 評価の充実、 情報公開や情報発信等の推進 ）

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 3 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

（4）その他業務運営に関する重要目標

（ 施設設備の整備・活用等、 安全管理、 法令遵守、 情報セキュリティ ）

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

施設活用調整委員会において、利用状況、狭隘、老朽化等の状況についての調査及び点検・評価を行い、これに基づいた計画的な維持管理、改修等を実施しており、平成 24 年度においては、多くの施設が老朽化した小島町地区の再開発を行うため「小島町地区再開発本部」を設置し、学生宿舎や共同研究施設等を整備する「小島町地区再開発基本方針」を策定している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 11 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

・教育研究等の質の向上の状況

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

学士課程教育における実践力育成の取組として、ものづくりを楽しむ力を養い創造性を高める教育プログラムを展開する「楽力工房」(ロボメカ工房、電子工学工房、ヒューマンメディア工房)での体験教育を実施している。

大学院各専攻にまたがる「大学院特別プログラム」として、企業との連携のもと実践的なソフトウェア開発に重点をおいた「高度 IT 人材育成のための実践的ソフトウェア開発専修プログラム」を実施するとともに、「高度 ICT 試作実験公開工房(ピクトラボ)」において、「楽力工房」の大学院版実践教育を行っている。

燃料電池イノベーション研究センターにおいて、固体高分子形燃料電池の実用化を推進し、大型放射光施設「SPring-8」に、大学独自の放射光を用いた世界最先端・高性能の「先端触媒構造反応リアルタイム計測ビームライン」を建設している。

連携協定を締結している企業の社員を産学連携コーディネーターとして受入れ、地域を中心とした企業ニーズとのマッチング活動を展開するとともに、新たな産学官連携機会が生まれるよう説明会等を開催しているほか、外部での産学官連携イベントにも積極的に参加している。

地域社会への教育機会提供を促進するための取組として、東京都立調布特別支援学校、調布市等自治体との連携講座、研究開発セミナー及び技術経営実践スクール、無線通信技術の高度技術研修等を開催しており、特に出張講義等の小・中・高校生向けの活動は、平成 24 年度において延べ 148 回実施している。

ギガビット時代の製品設計に求められる高周波アナログ技術者の養成と、産業界における大学の研究成果・知識の活用促進を目指した「ギガビット研究会」において、設計ガイドラインセミナー(6回)、第一線技術者養成講座(2回)及びシンポジウム(6回)等を開催している。

学生の海外インターンシップ受入れ先の開拓等のため、中国に置く海外事務所「深セン教育研究センター」を活用し、中国国内の日系・中国系機関を訪問して広報活動を実施した結果、中国国内の企業へのインターンシップ実績は、平成 24 年度は 3 社に 5 名を派遣し、平成 25 年度は 4 社に 6 名を派遣する予定となっている。

北見工業大学、ハルビン工程大学(中国)、武漢科技大学(中国)、国立勤益科技大学(台湾)との「国際シンポジウム(IWMST2012)」を開催しているほか、電子科技大学(中国)、淡江大学(台湾)及びキングモンクット工科大学ラカバン校(タイ)と連携し、「IT 活用国際化ものづくり教育事業」を実施するなど、国際交流を推進している。